

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など
	15	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	企業訪問	5-1,5-2		
	23	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	24	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	25	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	26	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る		
	27	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	28	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	29	期末試験(履歴書)	履歴書提出		
30	期末試験(履歴書)	履歴書提出			
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済
	7	小テスト	中学レベル小テスト
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学
	14	期末テスト	一般常識総ざらい
	15	期末テスト	一般常識総ざらい
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2
	25	個別指導1	書類添削、面接指導
	26	個別指導2	書類添削、面接指導
	27	個別指導3	書類添削、面接指導
	28	個別指導4	書類添削、面接指導
	29	個別指導5	書類添削、面接指導
30	個別指導5	書類添削、面接指導	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅲ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 3年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済
	7	小テスト	中学レベル小テスト
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学
	14	期末テスト	一般常識総ざらい
	15	期末テスト	一般常識総ざらい
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅲ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 3年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	25	個別指導1	書類添削、面接指導		
	26	個別指導2	書類添削、面接指導		
	27	個別指導3	書類添削、面接指導		
	28	個別指導4	書類添削、面接指導		
	29	個別指導5	書類添削、面接指導		
30	個別指導5	書類添削、面接指導			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 4年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済
	7	小テスト	中学レベル小テスト
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学
	14	期末テスト	一般常識総ざらい
	15	期末テスト	一般常識総ざらい
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 4年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2
	25	個別指導1	書類添削、面接指導
	26	個別指導2	書類添削、面接指導
	27	個別指導3	書類添削、面接指導
	28	個別指導4	書類添削、面接指導
	29	個別指導5	書類添削、面接指導
30	個別指導5	書類添削、面接指導	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I	指導担当者名	松岡純代
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2 時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	色彩概論テキスト		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習
	2	確認テスト色番号	教科書、問題集PCCS
	3	確認テスト色のはたらきについて	教科書、問題集色のはたらき、色とイメージ
	4	確認テスト光と色	教科書、問題集色はなぜ見えるのか、目のしくみ
	5	確認テスト混色	教科書、問題集照明と色の見え方、加法混色、減法混色
	6	確認テスト色の分類と三属性	教科書、問題集色の三属性、等色相面
	7	確認テストPCCS色相	教科書、問題集色相、明度、彩度、トーンのイメージ
	8	確認テストトーン記号	教科書、問題集色相とトーンによる色の表示方法
	9	確認テスト慣用色名①	教科書、問題集慣用句名、暖色と寒色
	10	確認テスト色彩心理	教科書、問題集進出色と後退色、膨張色と収縮色
	11	確認テスト色対比と錯視	教科書、問題集色対比、同化効果、色陰現象、色の錯視
	12	確認テスト色彩調和	教科書、問題集配色、色相から配色を考える
	13	確認テスト色彩効果	教科書、問題集配色技法、色彩と構成
	14	レポート作成	まとめ
	15	レポート作成	まとめ
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I		指導担当者名	松岡純代	
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数	2時間 時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	色彩概論テキスト				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	確認テスト授業説明	教科書、問題集		
	17	確認テスト色彩と生活	教科書、問題集生活環境と色彩、生活環境とカラーコーディネーション		
	18	確認テストファッションと色彩	教科書、問題集ファッションとは、ファッションコーディネートにおける色彩、基本的なカラーコーディネート		
	19	確認テストインテリアと色彩	教科書、問題集インテリアとは、住宅インテリアの色彩		
	20	確認テストインテリアのカラーコーディネーション	教科書、問題集インテリアのカラーコーディネーション、インテリアにおける色の心理的効果		
	21	確認テストコーポレートカラー	教科書、問題集インテリアの配色、インテリアにおける色彩検討、コーポレートカラー		
	22	確認テスト慣用色名②	教科書、問題集慣用句名説明		
	23	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説		
	24	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説		
	25	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説		
	26	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説		
	27	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説		
	28	色彩検定2級についての説明	次年度概要説明		
	29	レポート作成	まとめ		
30	レポート作成	まとめ			
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論Ⅱ	指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<p>色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期1回・後期1回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポートごうかくを目指していく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等		
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、学習方法確認・3級振り返り・色彩動画観賞・次回準備
	2	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集、豆テスト・トーン別色相環制作・配色イメージと色彩調和
	3	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和
	4	確認テスト色彩調和・色のUD光と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和と色のUD
	5	確認テスト色のUD・光と色	教科書、問題集・豆テスト・色のUDと光と色
	6	確認テスト光と色・マンセル表色系	教科書、問題集・豆テスト・光と色とマンセル表色系
	7	確認テストマンセル・色彩心理・ビジュアル	教科書、問題集・豆テスト・マンセル表色系と色彩心理とビジュアル
	8	確認テストビジュアル・ファッション	教科書、問題集・豆テスト・ビジュアルとファッション・テキスト前半部確認テストインフォメーション
	9	テキスト確認テストファッション・インテリア	・テキスト前半部確認テスト実施・教科書、問題集ファッションとインテリア・期末テストインフォメーション
	10	確認テスト・インテリア・景観	教科書、問題集 インテリア・景観色彩
	11	確認テスト景観	教科書、問題集景観色彩
	12	テキストまとめ	テキストまとめ・アンケート実施
	13	テキストまとめ	テキストまとめ・アンケート実施・夏休み中の宿題インフォメーション
	14	前期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
	15	前期振り返り	前期振り返り
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論Ⅱ	指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<p>色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期1回・後期1回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポートごうかくを目指していく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等		
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	宿題回収・テキスト振り返り	・夏休み課題提出日・教科書、問題集・過去問各章ごと実施と振り返り
	17	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト実施と振り返り
	18	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト・実施と振り返り
	19	各章の過去問実施	教科書、問題集過去問各章テスト実施・進捗確認アンケート実施・次回インフォメーション
	20	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策勉強方法ポイント解説とテキスト振り返り
	21	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	22	確認テスト過去問題	過去問実施(70分)・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	23	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	24	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	25	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	26	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	27	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	28	後期期末試験	模擬試験
	29	後期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
30	後期振り返り	後期振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論 I		指導担当者名	阿部 治	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	DTPについて基礎知識の習得				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	新詳説 DTP基礎[改訂四版]				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	DTPの概要	DTPとは？ DTPの歴史		
	2	DTPの概要	DTPの流れと職種 DTPに必要な知識		
	3	DTPの概要	DTPデータの活用		
	4	印刷の基礎知識	印刷物ができるまで 印刷方式の種類 カラー印刷のしくみと印刷線数		
	5	印刷の基礎知識	印刷用紙 面付けと折り加工 製本		
	6	印刷の基礎知識	特殊印刷と特殊加工 CTPとDDCP オンデマンド印刷		
	7	DTPに必要なもの	DTPシステム ハードウェア(①パソコン本体②インターフェースとディスプレイ)		
	8	DTPに必要なもの	ハードウェア(③入力機器とプリンター④メディアとネットワーク)ソフトウェア(①OS)		
	9	DTPに必要なもの	ソフトウェア(②グラフィック③ページレイアウトとPDF④フォントとその他のソフト)		
	10	グラフィックデータ	グラフィックデータの種類 画像解像度とビット深度 写真原稿とスキャニング		
	11	グラフィックデータ	画像データの修正Photoshopの活用① 画像データの調整Photoshopの活用②画像データの加工Photoshopの活用③		
	12	グラフィックデータ	ベクトル画像のしくみIllustratorの活用① ログや図版などの作成Illustratorの活用② ファイル形式と画像リソースの活用		
	13	前期期末試験	期末試験		
	14	前期の振り返り	前期振り返り		
	15	前期フィードバック	フィードバック、評価		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論 I		指導担当者名	阿部 治	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	DTPについて基礎知識の習得				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	新詳説 DTP基礎[改訂四版]				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	文字組とフォント	テキストデータ 文字の属性		
	17	文字組とフォント	文字詰めと文字の変形 段落の設定		
	18	文字組とフォント	デジタルフォント(①PostScript/TrueType②OpenType)		
	19	文字組とフォント	文字コードと文字セット フォントの管理		
	20	色の基本と印刷	色の原理 色の属性とトーン 特色		
	21	色の基本と印刷	トラッピングとリッチブラック カラーマネジメント		
	22	組版とレイアウトの基本	トンボと裁ち落とし ペラもののレイアウト ページのつくり		
	23	組版とレイアウトの基本	多ページもののフォーマットの作成 多ページもののレイアウト		
	24	組版とレイアウトの基本	スタイル機能の活用 入稿データのチェック		
	25	PDFと電子書籍	PDFとは 閲覧用PDF		
	26	PDFと電子書籍	入稿用PDF 電子書籍①フォーマットと端末(リーダー)		
	27	PDFと電子書籍	電子書籍(②EPUB③PDFとアプリ型)		
	28	後期期末試験	期末試験		
	29	後期の振り返り	後期振り返り		
30	後期フィードバック	各自作品のプレゼン内容からフィードバック			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論Ⅱ		指導担当者名	石井祐一	
実務経験	有	印刷会社社長として現在も活躍中、16年間従事している			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	卒業生:2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。				
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	印刷工程	印刷の方法		
	2	印刷工程	コストについて		
	3	フォント	フォントの種類について		
	4	フォント	アウトライン作成について		
	5	画像	拡張子と画像のサイズについて		
	6	画像	入稿データ(埋め込み方法について)		
	7	カラー	CMYKとRGBについて		
	8	カラー	カラーマネジメントについて		
	9	保存形式	デザインソフトの入稿データ保存について		
	10	保存形式	PDFデータの保存方法について		
	11	制作実習	Illustratorで課題制作		
	12	制作実習	Illustratorで課題制作		
	13	前期期末試験	期末試験		
	14	前期振り返り	前期振り返り		
	15	前期フィードバック	フィードバック		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	DTP概論Ⅱ		指導担当者名	石井祐一	
実務経験	有	印刷会社社長として現在も活躍中、16年間従事している			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。				
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	印刷の種類	紙質の違いによる印刷		
	17	印刷の種類	紙以外への素材による印刷		
	18	製本の種類	並製本と上製本		
	19	製本の種類	面付けと折り加工		
	20	インクの種類	オフセット印刷と活版印刷のインクについて		
	21	インクの種類	グラビア印刷とシルクスクリーン印刷、その他特殊のインクについて		
	22	定型用紙の種類	塗工紙について		
	23	定型用紙の種類	非塗工紙について		
	24	特殊加工の種類	オフセット印刷、活版印刷、グラビア印刷について		
	25	特殊加工の種類	シルクスクリーン印刷、凸版印刷と箔押しについて		
	26	制作実習	Photoshopで課題制作		
	27	制作実習	Photoshopで課題制作		
	28	後期期末試験	期末試験		
	29	後期振り返り	後期振り返り		
30	後期フィードバック	期末試験			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	14	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	28	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	29	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
30	期末試験	期末試験	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	14	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	28	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	29	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
30	期末試験	期末試験	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅲ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 3年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	14	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅲ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 3年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	28	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	29	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
30	期末試験	期末試験	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 4年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	14	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 4年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	28	選択基礎12	選択授業の基礎を学ぶ。
	29	選択基礎13	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
30	期末試験	期末試験	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 1年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらせず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 				
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション／レポートとは何か	誰に何を伝えるために書くのかを考え、読み手を意識した文章作成の基本を学ぶ。		
	2	文章を書く目的を理解する	与えられたテーマから何を書くべきかを考え、内容を絞り込む練習を行う。		
	3	テーマの捉え方	物事をよく見るための視点を学び、具体的な気づきを文章化する。		
	4	観察力を高める	「おもしろかった」「よかった」で終わらせず、理由や背景を考える練習を行う。		
	5	感想と考察の違い	自分の意見に対して、具体例や体験、資料を根拠として加える方法を学ぶ。		
	6	根拠を持って意見を書く	レポートの基本構成を理解し、文章全体の流れを設計する。		
	7	序論・本論・結論の構成	1つの段落に1つの内容をまとめる方法を学び、読みやすい文章構成を練習する。		
	8	段落の作り方	長すぎる文、主語述語のねじれ、曖昧な表現を見直し、伝わる文章に修正する。		
	9	わかりやすい文章表現	文章や資料の要点を読み取り、短くまとめる練習を行う。		
	10	要約の練習	2つ以上のものを比較し、共通点や相違点から考察を深める方法を学ぶ。		
	11	比較して考える	日常や学校生活に関するテーマをもとに、短いレポートを作成する。		
	12	身近なテーマでミニレポート作成	作成した文章を読み返し、構成や表現、根拠の不足を確認する。		
	13	ミニレポートの見直し・添削	前期で学習した内容を振り返り、レポート構成や考察方法を確認する。		
	14	前期まとめ／期末試験対策	前期で学習した内容をもとに、指定テーマに沿ったレポート作成または筆記試験を実施する。		
	15	期末試験	各自作品のプレゼン、評価		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の復習／後期の目標設定	前期で学んだレポートの基本構成を確認し、後期ではより深い考察を目指す。
	17	情報収集の基本	レポート作成に必要な情報の集め方、信頼できる資料の選び方を学ぶ。
	18	資料の読み取り方	記事や資料から重要な情報を抜き出し、自分の意見と関連付ける練習を行う。
	19	引用と参考文献の扱い	他者の文章や情報を使う際のルールを理解し、引用・参考文献の基本を学ぶ。
	20	客観的に見る力	自分の考えだけでなく、他者の立場や社会的背景を踏まえて考える練習を行う。
	21	問題提起の方法	レポートの中で扱う問いを立て、何について考察するのかを明確にする。
	22	主張を組み立てる	問題提起に対して、自分の主張を整理し、根拠と結び付ける方法を学ぶ。
	23	反対意見を考える	自分の意見とは異なる考え方を想定し、より説得力のある考察につなげる。
	24	作品・事例を分析する	作品、広告、記事、映像などを題材に、特徴や意図を読み取る分析練習を行う
	25	レポートテーマの設定	後期レポートのテーマを決定し、調査内容や構成案を作成する。
	26	構成案の作成	序論・本論・結論に沿って、レポート全体の構成を具体的に組み立てる。
	27	レポート本文の作成	設定したテーマと構成案をもとに、本文の作成を進める。
	28	推敲・修正	作成したレポートを見直し、文章表現、論理の流れ、引用表記などを修正する。
	29	後期まとめ／期末試験対策	後期で学んだ情報収集、考察、引用、構成のポイントを復習する。
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、指定テーマまたは自身で設定したテーマによるレポート作成・試験を実施する。	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらせず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション／レポートとは何か	誰に何を伝えるために書くのかを考え、読み手を意識した文章作成の基本を学ぶ。
	2	文章を書く目的を理解する	与えられたテーマから何を書くべきかを考え、内容を絞り込む練習を行う。
	3	テーマの捉え方	物事をよく見るための視点を学び、具体的な気づきを文章化する。
	4	観察力を高める	「おもしろかった」「よかった」で終わらせず、理由や背景を考える練習を行う。
	5	感想と考察の違い	自分の意見に対して、具体例や体験、資料を根拠として加える方法を学ぶ。
	6	根拠を持って意見を書く	レポートの基本構成を理解し、文章全体の流れを設計する。
	7	序論・本論・結論の構成	1つの段落に1つの内容をまとめる方法を学び、読みやすい文章構成を練習する。
	8	段落の作り方	長すぎる文、主語述語のねじれ、曖昧な表現を見直し、伝わる文章に修正する。
	9	わかりやすい文章表現	文章や資料の要点を読み取り、短くまとめる練習を行う。
	10	要約の練習	2つ以上のものを比較し、共通点や相違点から考察を深める方法を学ぶ。
	11	比較して考える	日常や学校生活に関するテーマをもとに、短いレポートを作成する。
	12	身近なテーマでミニレポート作成	作成した文章を読み返し、構成や表現、根拠の不足を確認する。
	13	ミニレポートの見直し・添削	前期で学習した内容を振り返り、レポート構成や考察方法を確認する。
	14	前期まとめ／期末試験対策	前期で学習した内容をもとに、指定テーマに沿ったレポート作成または筆記試験を実施する。
	15	期末試験	各自作品のプレゼン、評価
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらせず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の復習／後期の目標設定	前期で学んだレポートの基本構成を確認し、後期ではより深い考察を目指す。
	17	情報収集の基本	レポート作成に必要な情報の集め方、信頼できる資料の選び方を学ぶ。
	18	資料の読み取り方	記事や資料から重要な情報を抜き出し、自分の意見と関連付ける練習を行う。
	19	引用と参考文献の扱い	他者の文章や情報を使う際のルールを理解し、引用・参考文献の基本を学ぶ。
	20	客観的に見る力	自分の考えだけでなく、他者の立場や社会的背景を踏まえて考える練習を行う。
	21	問題提起の方法	レポートの中で扱う問いを立て、何について考察するのかを明確にする。
	22	主張を組み立てる	問題提起に対して、自分の主張を整理し、根拠と結び付ける方法を学ぶ。
	23	反対意見を考える	自分の意見とは異なる考え方を想定し、より説得力のある考察につなげる。
	24	作品・事例を分析する	作品、広告、記事、映像などを題材に、特徴や意図を読み取る分析練習を行う
	25	レポートテーマの設定	後期レポートのテーマを決定し、調査内容や構成案を作成する。
	26	構成案の作成	序論・本論・結論に沿って、レポート全体の構成を具体的に組み立てる。
	27	レポート本文の作成	設定したテーマと構成案をもとに、本文の作成を進める。
	28	推敲・修正	作成したレポートを見直し、文章表現、論理の流れ、引用表記などを修正する。
	29	後期まとめ／期末試験対策	後期で学んだ情報収集、考察、引用、構成のポイントを復習する。
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、指定テーマまたは自身で設定したテーマによるレポート作成・試験を実施する。	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習Ⅲ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらせず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション／レポートとは何か	誰に何を伝えるために書くのかを考え、読み手を意識した文章作成の基本を学ぶ。
	2	文章を書く目的を理解する	与えられたテーマから何を書くべきかを考え、内容を絞り込む練習を行う。
	3	テーマの捉え方	物事をよく見るための視点を学び、具体的な気づきを文章化する。
	4	観察力を高める	「おもしろかった」「よかった」で終わらせず、理由や背景を考える練習を行う。
	5	感想と考察の違い	自分の意見に対して、具体例や体験、資料を根拠として加える方法を学ぶ。
	6	根拠を持って意見を書く	レポートの基本構成を理解し、文章全体の流れを設計する。
	7	序論・本論・結論の構成	1つの段落に1つの内容をまとめる方法を学び、読みやすい文章構成を練習する。
	8	段落の作り方	長すぎる文、主語述語のねじれ、曖昧な表現を見直し、伝わる文章に修正する。
	9	わかりやすい文章表現	文章や資料の要点を読み取り、短くまとめる練習を行う。
	10	要約の練習	2つ以上のものを比較し、共通点や相違点から考察を深める方法を学ぶ。
	11	比較して考える	日常や学校生活に関するテーマをもとに、短いレポートを作成する。
	12	身近なテーマでミニレポート作成	作成した文章を読み返し、構成や表現、根拠の不足を確認する。
	13	ミニレポートの見直し・添削	前期で学習した内容を振り返り、レポート構成や考察方法を確認する。
	14	前期まとめ／期末試験対策	前期で学習した内容をもとに、指定テーマに沿ったレポート作成または筆記試験を実施する。
	15	期末試験	各自作品のプレゼン、評価
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習Ⅲ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらせず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の復習／後期の目標設定	前期で学んだレポートの基本構成を確認し、後期ではより深い考察を目指す。
	17	情報収集の基本	レポート作成に必要な情報の集め方、信頼できる資料の選び方を学ぶ。
	18	資料の読み取り方	記事や資料から重要な情報を抜き出し、自分の意見と関連付ける練習を行う。
	19	引用と参考文献の扱い	他者の文章や情報を使う際のルールを理解し、引用・参考文献の基本を学ぶ。
	20	客観的に見る力	自分の考えだけでなく、他者の立場や社会的背景を踏まえて考える練習を行う。
	21	問題提起の方法	レポートの中で扱う問いを立て、何について考察するのかを明確にする。
	22	主張を組み立てる	問題提起に対して、自分の主張を整理し、根拠と結び付ける方法を学ぶ。
	23	反対意見を考える	自分の意見とは異なる考え方を想定し、より説得力のある考察につなげる。
	24	作品・事例を分析する	作品、広告、記事、映像などを題材に、特徴や意図を読み取る分析練習を行う
	25	レポートテーマの設定	後期レポートのテーマを決定し、調査内容や構成案を作成する。
	26	構成案の作成	序論・本論・結論に沿って、レポート全体の構成を具体的に組み立てる。
	27	レポート本文の作成	設定したテーマと構成案をもとに、本文の作成を進める。
	28	推敲・修正	作成したレポートを見直し、文章表現、論理の流れ、引用表記などを修正する。
	29	後期まとめ／期末試験対策	後期で学んだ情報収集、考察、引用、構成のポイントを復習する。
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、指定テーマまたは自身で設定したテーマによるレポート作成・試験を実施する。	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらせず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション／レポートとは何か	誰に何を伝えるために書くのかを考え、読み手を意識した文章作成の基本を学ぶ。
	2	文章を書く目的を理解する	与えられたテーマから何を書くべきかを考え、内容を絞り込む練習を行う。
	3	テーマの捉え方	物事をよく見るための視点を学び、具体的な気づきを文章化する。
	4	観察力を高める	「おもしろかった」「よかった」で終わらせず、理由や背景を考える練習を行う。
	5	感想と考察の違い	自分の意見に対して、具体例や体験、資料を根拠として加える方法を学ぶ。
	6	根拠を持って意見を書く	レポートの基本構成を理解し、文章全体の流れを設計する。
	7	序論・本論・結論の構成	1つの段落に1つの内容をまとめる方法を学び、読みやすい文章構成を練習する。
	8	段落の作り方	長すぎる文、主語述語のねじれ、曖昧な表現を見直し、伝わる文章に修正する。
	9	わかりやすい文章表現	文章や資料の要点を読み取り、短くまとめる練習を行う。
	10	要約の練習	2つ以上のものを比較し、共通点や相違点から考察を深める方法を学ぶ。
	11	比較して考える	日常や学校生活に関するテーマをもとに、短いレポートを作成する。
	12	身近なテーマでミニレポート作成	作成した文章を読み返し、構成や表現、根拠の不足を確認する。
	13	ミニレポートの見直し・添削	前期で学習した内容を振り返り、レポート構成や考察方法を確認する。
	14	前期まとめ／期末試験対策	前期で学習した内容をもとに、指定テーマに沿ったレポート作成または筆記試験を実施する。
	15	期末試験	各自作品のプレゼン、評価
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	レポート演習Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	30時間	単位数	2単位 週時間数 1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成に必要な基本構成を理解し、序論・本論・結論の流れに沿って文章を組み立てることができる。 ・物事を一面的に捉えるのではなく、複数の視点から観察・比較・分析する力を身につける。 ・自分の考えを感想だけで終わらせず、根拠や具体例を用いて説明することができる。 ・資料や情報を適切に読み取り、自身の意見と関連付けながらレポートに反映することができる。 ・読み手に伝わりやすい文章表現、段落構成、見出しの付け方を理解し、実践することができる。 ・期末試験および課題制作を通じて、テーマに対して自ら考察し、まとまりのあるレポートを作成する力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・PCまたはタブレット・Word、Googleドキュメント等の文書作成ソフト 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験に向けて、授業内で学習したレポート構成、考察方法、引用方法を復習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の復習／後期の目標設定	前期で学んだレポートの基本構成を確認し、後期ではより深い考察を目指す。
	17	情報収集の基本	レポート作成に必要な情報の集め方、信頼できる資料の選び方を学ぶ。
	18	資料の読み取り方	記事や資料から重要な情報を抜き出し、自分の意見と関連付ける練習を行う。
	19	引用と参考文献の扱い	他者の文章や情報を使う際のルールを理解し、引用・参考文献の基本を学ぶ。
	20	客観的に見る力	自分の考えだけでなく、他者の立場や社会的背景を踏まえて考える練習を行う。
	21	問題提起の方法	レポートの中で扱う問いを立て、何について考察するのかを明確にする。
	22	主張を組み立てる	問題提起に対して、自分の主張を整理し、根拠と結び付ける方法を学ぶ。
	23	反対意見を考える	自分の意見とは異なる考え方を想定し、より説得力のある考察につなげる。
	24	作品・事例を分析する	作品、広告、記事、映像などを題材に、特徴や意図を読み取る分析練習を行う
	25	レポートテーマの設定	後期レポートのテーマを決定し、調査内容や構成案を作成する。
	26	構成案の作成	序論・本論・結論に沿って、レポート全体の構成を具体的に組み立てる。
	27	レポート本文の作成	設定したテーマと構成案をもとに、本文の作成を進める。
	28	推敲・修正	作成したレポートを見直し、文章表現、論理の流れ、引用表記などを修正する。
	29	後期まとめ／期末試験対策	後期で学んだ情報収集、考察、引用、構成のポイントを復習する。
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、指定テーマまたは自身で設定したテーマによるレポート作成・試験を実施する。	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	キャラクター制作演習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	90時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	キャラクターデザインの基礎的実習でキャラクターデザインについて習得する事を目標とする。 キャラクターのデザイン、描き方をまなぶ。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator		
授業外学習の方法	自宅での実習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	年間インフォメーション 指示書の読み解き方 ファンアートと仕事絵の違い
	2	イラスト制作のコツ	イラストポートフォリオを作る12のコツ、チーム制作で知っておくべき7ヶ条
	3	色彩基礎	初心者のための色彩講座、絵を上達させる3つのイラストレッスンのコツ
	4	アタリの取り方	アタリの取り方講座、パーツのイメージから考える！キャラクターを描き分ける方法
	5	喜怒哀楽	ポーズでキャラ性を描き分ける！性格別の喜怒哀楽
	6	顔の描き方	初心者の「なぜか上手く描けない」を解決！顔の描き方テクニック-実践編-
	7	ポーズの描き方	初心者の「なぜか上手く描けない」を解決！ポーズの描き方テクニック編
	8	全身の描き方	初心者の「なぜか上手く描けない」を解決！全身の描き方テクニック-実践編-
	9	構図の基礎	イラストが映える黄金比は存在する！覚えておきたい構図の基本3選
	10	仕上げテク。構図編	簡単にイラストを上手く見せるテクニック-構図編-
	11	仕上げテク。ポーズ編	簡単にイラストを上手く見せるテクニック -ポーズ編-
	12	多人数構図	多人数をどうやって配置する？複数キャラクターの構図集
	13	デフォルメキャラクタ	デフォルメキャラクターの描き方
	14	期末試験	喜怒哀楽だけじゃ足りない！？豊富な表情バリエーションの作り方
	15	期末試験振り返り	期末試験振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	キャラクター制作演習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	90時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	キャラクターデザインの基礎的実習でキャラクターデザインについて習得する事を目標とする。 キャラクターのデザイン、描き方をまなぶ。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator		
授業外学習の方法	自宅での実習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	顔の描き方	「顔の描き方」をマスターする7つのポイント
	17	光と影	基礎力UP！立体感を表現する際に必要な2種類の光を覚えよう
	18	立体感の表現法	OK例とNG例で理解度UP！線画で立体感を表現する3つのコツ
	19	配色	配色の比率は70:25:5！キャラクター配色の決め方 基本編
	20	陰影	悪者は下からライトアップ！印象を変える影の付け方
	21	デジタル彩色	厳選！デジタル絵で覚えておきたい塗り方4種類
	22	イラストアイデアの出し方	テーマ:「夏」イラストのアイデアのヒント
	23	擬人化	モチーフの魅力を引き出す擬人化キャラの描き方
	24	人物のアタリ	輪切りにするとよく分かる！人物のアタリの取り方のコツ
	25	顔の男女描き分け	髪型で誤魔化さない！男女の顔の描き分け講座
	26	イラストの仕上げ	密度の高め方を理解！豪華なイラストを描く3つのコツ
	27	ポージング応用	棒立ちからの脱却！キャラの魅力を引き出すポージングのコツ4選
	28	進化描き分け	ゲームキャラの「進化」で考える！イラストを豪華に魅せる5つのコツ
29	期末試験	恋愛の「ドキッ」と感も出せる！？キャラクターが生きる構図の作り方	
30	期末試験振り返り	期末試験振り返り	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	キャラクター制作演習Ⅱ	指導担当者名	曲山美月
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	90時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の基本的構造を理解する ・人物描画の基礎を身に付ける ・背景描画の基礎を身に付ける ・背景と人物が同じ空間にいるように、違和感なく描ける クリエイティブな環境について学習し、作品発信につなげる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。		
使用教材	PC、スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット		
授業外学習の方法	pixivsensei機能を使った復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第1回: 導入(解説・制作)	Vtuber市場・需要解説。好きなVtuberを選び「別衣装・別コンセプト」の寄せデザイン制作
	2	第1回: 講評	「誰っばいかわるか」基準の講評。「らしさ」を構成する要素(色・シルエット等)の共有
	3	第2回: 仕様書ありデザイン(解説・制作)	仕様書の読み取り方。細かい性格・要望に基づいたキャラデザ着手(ラフ～色ラフ)
	4	第3回: 仕様書ありデザイン(仕上げ・講評)	クリンナップと彩色。成果物の講評。追加課題: 別仕様書で新規デザイン1案制作
	5	第4回: 抽象仕様デザイン(解説・制作)	抽象要素の落とし込み。「短髪・クール系」等、曖昧な要望からのデザイン案量産
	6	第5回: 抽象仕様デザイン(制作・講評)	選定案の仕上げと講評。追加課題: 同条件で別パターンでのデザインを1案制作
	7	第6回: 既存新衣装・具体(解説・制作)	衣装デザインの考え方。既存キャラ+具体要望による新衣装デザイン1案制作
	8	第6回: 講評・追加課題	成果物の講評。追加課題: 別衣装案を追加で1案制作
	9	第7回: 既存新衣装・抽象(解説・制作)	解釈力強化。抽象要望(「冬の星空」等)から新衣装デザインを1案制作
	10	第7回: 講評・追加課題	成果物の講評。追加課題: 別衣装案を追加で1案制作
	11	第8回: オリジナルVtuber(解説・制作)	総まとめ。複数コンセプトから選択し、新規キャラクターデザインの設計(三面図ラフ)
	12	第9回: オリジナルVtuber(彩色)	メインビジュアルとしての彩色。教本を活用したリサーチとディテールアップ
	13	第10回: オリジナルVtuber(仕上げ・講評)	成果物の最終講評。ポータルサイト掲載を見据えたクオリティチェック
	14	前期まとめ: デザイン案の整理	これまでの単発課題を「デザイン実績」として1枚のシートにレイアウトする
	15	前期総括・リサーチ実習	教本「Vtuberデザイン教室」を用い、流行のデザインラインと自身の個性のすり合わせ
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	キャラクター制作演習Ⅱ	指導担当者名	曲山美月
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	90時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の基本的構造を理解する ・人物描画の基礎を身に付ける ・背景描画の基礎を身に付ける ・背景と人物が同じ空間にいるように、違和感なく描ける クリエイティブな環境について学習し、作品発信につなげる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。		
使用教材	PC、スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット		
授業外学習の方法	pixivsensei機能を使った復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	後期導入: パーツ分けの構造理解	Live2D等を想定した「動くための構造」。関節、重なり、隠れる部分の設計
	17	パーツ分け実習(1): 顔周り	瞬き、口の開閉、髪揺れ。パーツ分割の境界線と描き足しの技術
	18	パーツ分け実習(2): 体・衣装	腕の屈折、服の重なり、装飾品の独立。前後関係を意識したレイヤー管理
	19	パーツ分け実習(3): 書き出し・確認	透過PNG書き出し、PSD構造の最終チェック。モデラーへの指示書作成
	20	アニメ分野への応用: 三面図	アニメ設定資料形式。どの角度から見ても矛盾のない構造の整合性確認
	21	ゲーム分野への応用: SDキャラ	2頭身~3頭身へのデフォルメ。特徴を残したまま情報を整理する技術
	22	ターゲット別デザイン: 少年・少女	市場需要に合わせた年齢層の描き分け。骨格と等身のコントロール
	23	ターゲット別デザイン: 青年・大人	筋肉、体格、色気。シルエットで年齢と性格を伝えるデザイン
	24	属性デザイン: ファンタジー	異世界、獣人、魔法使い。既存の型を崩さずに新しさを出すアレンジ術
	25	属性デザイン: 現代・サイバー	現代服+メカ、ストリートファッション。素材感の対比によるデザイン
	26	クライアント対応: スピード提案	3タームで1体の新キャラ案。ラフの段階で「選ばれる」ための見せ方
	27	PF強化: 三面図と解説図	設定資料としての美しさ。構造解説、表情差分をまとめた資料制作
	28	卒業制作/PF作品(1): コンセプト	2年間の集大成としてのオリジナルVtuber制作。コンセプトと仕様書作成
	29	卒業制作/PF作品(2): 清書・彩色	パーツ分けも見越した最高密度の作画。多角的な視点でのデザイン
30	年間総括: ポートフォリオ合評	制作したVtuberデザイン群の発表。依頼獲得に向けた強みの言語化	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習 I		指導担当者名	荻野 美保	
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定) 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	Machintosh PC, IllustratorクイックマスターCC (Win/Mac) 対応, PhotoshopクイックマスターCC (Win/Mac) 対応				
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/インターフェース・ツール・パネル		
	2	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定		
	3	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/オブジェクトの設定と描画		
	4	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/編集操作(CP・前後関係・グループ化・移動)		
	5	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ		
	6	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/文字の作成・文字関連の機能		
	7	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/パスの基本的な描画と編集		
	8	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/線とアピアランス		
	9	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/レイアウトの補助機能		
	10	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/グラデーション・スウォッチ・パターン		
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説		
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説		
	13	過去問題	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施		
	14	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施		
	15	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習 I		指導担当者名	荻野 美保	
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定) 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	Macintosh PC, IllustratorクイックマスターCC (Win/Mac) 対応, PhotoshopクイックマスターCC (Win/Mac) 対応				
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識 / インターフェース・ドキュメントウィンドウ・ツール・パネル		
	17	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識 / 画面表示・色の選択・環境設定		
	18	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作 / 選択ツール・範囲の読み込み		
	19	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作 / 画像解像度とサイズトリミング		
	20	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作 / 変形・カラーモード色調補正		
	21	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作 / ペイント・レタッチ・レイヤーの操作		
	22	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作 / パス・切抜・シェイプ・フィルター・テキストの入力について		
	23	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作 / コンテンツ制作・ロゴ制作 / カスタムシェイプ		
	24	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作 / コンテンツ制作・フォトカード / アクション		
	25	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作 / Webページの制作		
	26	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説		
	27	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説		
	28	過去問題	模擬試験		
	29	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施		
30	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習Ⅱ		指導担当者名	荻野 美保	
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の応用を習得する ・アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	MACPC Illustrator®クイックマスター CC (Win/Mac) 対応、Photoshop®クイックマスターCC (Win/Mac) 対応				
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 2部応用編 チャプター1 オブジェクトの描画 線 レイアウトの補助機能		
	2	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 スウォッチ、パターン、グラデーション、アピアランス		
	3	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 レイヤー応用 チャプター4 パス上文字入力、文字種類、文字関連機能 チャプター5 パスの編集		
	4	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 コンテンツの制作編 チャプター1 制作		
	5	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 コンテンツの制作編 チャプター2 制作		
	6	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター3 WEB用に保存する、WEBパーツデザインをする		
	7	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター4 グラフの基本操作、グラフのデザインをカスタマイズする		
	8	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター4 グラフの基本操作、グラフのデザインをカスタマイズする		
	9	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター5 DTPのための環境設定、名刺デザイン		
	10	Illustrator検定実技対策(エキスパート)	クイックマスター 第3部 チャプター5 写真を配置したDM、見開きパンフレットのデザイン		
	11	過去問題	一昨年の問題の実践と解説		
	12	過去問題	昨年の問題の実践と解説		
	13	過去問題	模擬試験		
	14	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施		
	15	前期振り返り	検定試験前の最終確認授業		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	Adobe演習Ⅱ		指導担当者名	荻野 美保	
実務経験	有	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の応用を習得する ・アプリケーションのアドバンススキル習得 * 前期では サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す * 後期では サーティファイ photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート 取得を目指す 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	MACPC Illustrator®クイックマスター CC (Win/Mac) 対応、Photoshop®クイックマスターCC (Win/Mac) 対応				
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター 第2部 コンテンツ制作編 チャプター1 色調補正ツールの基本ワザ、食べ物の写真を補正する		
	17	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター1 曇天の裏路地を夕暮れに変える、ロゴデザイン		
	18	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター2 ロゴデザイン、カスタムシェイプとカスタムスタイルで制作、焼けたナンバープレートの制作		
	19	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター3 アクションで作るミニフォトカード、写真から作る立体ポップ、フィルターで作るブックカバー		
	20	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター4 フォトコラージュ		
	21	Photoshop検定対策(エキスパート)	クイックマスター チャプター5 WEBサイトデザイン		
	22	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P10~59		
	23	Photoshop検定対策(エキスパート)	1年次からの振り返り、基本操作編1 P60~119		
	24	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P120~181		
	25	Photoshop検定対策(エキスパート)	2年次習得用語振り返り、P182~246		
	26	過去問題	一昨年前の過去問題の実施と解説		
	27	過去問題	昨年度の過去問題の実施と解説		
	28	過去問題	模擬試験		
	29	期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施		
30	後期振り返り	検定試験前の最終確認授業			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習 I	指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・鉛筆、練り消し、消しゴム		
授業外学習の方法	・身近な物を観察し、短時間のスケッチやクロッキーを継続して行う。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の進め方、道具の解説、鉛筆の削り方、姿勢と視点の持ち方
	2	点・線・面の基礎演習	鉛筆のタッチ(ハッチング)による階調表現、筆圧のコントロール
	3	基本形態の描写(1):球体	光源の意識、陰影の境界線、回り込みの表現と反射光の理解
	4	基本形態の描写(2):立方体	形の正確な把握(パース)、面ごとの明度差(バリュー)の描き分け
	5	基本形態の描写(3):円柱	直線と曲線の組み合わせ、円のパース、質感の基礎
	6	静物デッサン(1):基本形態の組み合わせ	複数のモチーフを配置した際の接地感と、空間の奥行き表現
	7	静物デッサン(2):質感:自然物	木、石、野菜など。複雑な形状と固有のテクスチャの捉え方
	8	静物デッサン(3):質感:人工物	金属、ガラス、プラスチック。反射と透明感の描き分け
	9	構図法とフレーミング	画面構成の基本、モチーフの配置による視線誘導、エスキースの重要性
	10	解剖学基礎:手の構造	骨格と筋肉の仕組みを学び、手のポーズを論理的に捉える
	11	手のデッサン	自分の手をモチーフにした描写。複雑なフォルムと立体感の追求
	12	空間描写の基礎	教室の一部や窓外を使い、広がり鉛筆一本で表現する訓練
	13	前期まとめ制作(1)	自由静物課題:モチーフの構成、アタリから大まかな明暗まで
	14	前期まとめ制作(2)	詳細な描き込み、質感の追求、画面全体のバルール(調子)の調整
	15	前期まとめ講評	合評を通じた自己課題の発見と、デッサン力の現状確認
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習 I		指導担当者名	大坂美智子	
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 1年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	・鉛筆、練り消し、消しゴム				
授業外学習の方法	・身近な物を観察し、短時間のスケッチやクロッキーを継続して行う。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	色鉛筆デッサン(2)	クラフト紙に鉛筆・白鉛筆。手を描く。質感と立体感の強調		
	17	色鉛筆デッサン(3)	完成・発表		
	18	石膏デッサン(1)	CIは石膏、MCは風景。アタリと大きなプロポーションの把握		
	19	石膏デッサン(2)	面構成の把握。構造を単純化して捉える訓練		
	20	石膏デッサン(3)	細部の描写。パーツの形と石膏の質感表現		
	21	石膏デッサン(4)	完成・合評		
	22	風景デッサン制作(1)	解説・ロケハン。風景を切り取る視点と構図の決定		
	23	風景デッサン制作(2)	大きな明暗バランスの配置。画面全体のトーン決定		
	24	風景デッサン制作(3)	細部の描き込み。自然物と人工物の描き分け		
	25	風景デッサン制作(4)	完成・合評		
	26	ポートフォリオ制作(1):企画	デッサン専任としての自己アピール作品の選定・構成案		
	27	ポートフォリオ制作(2):制作	弱点を克服した、最も完成度の高い作品の描き込み		
	28	ポートフォリオ制作(3):仕上げ	画面の隅々まで意識した最終調整、作品の定着処理(フィキサチフ)		
	29	年間総括・講評	1年間の作品を通じた成長の振り返りと、次年度への課題抽出		
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、総合デッサン課題を実施			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習Ⅱ	指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・鉛筆、練り消し、消しゴム		
授業外学習の方法	・身近な物を観察し、短時間のスケッチやクロッキーを継続して行う。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	2年次の目標:応用力と表現力の向上。高硬度・低硬度鉛筆の使い分け再確認
	2	複合モチーフの観察	異なる質感(金属×布など)を組み合わせた、固有色の対比と描写
	3	空間とパースの深化	室内空間を広角的に捉え、パースの歪みを逆手に取ったダイナミックな描写
	4	解剖学応用:全身のプロポーション	人体骨格(骨盤・脊椎)を意識した、全身のクロッキーとアタリの取り方
	5	解剖学応用:筋肉の動き	腕や脚の筋肉の隆起を、面として捉えて陰影をつける訓練
	6	実践デッサン:着衣の人物	布の質感、シワの寄り方と、その中にある身体の立体感の把握
	7	色鉛筆デッサン(1):基礎技法	クラフト紙に鉛筆・白鉛筆。ハイライトを際立たせる混合技法の習得
	8	色鉛筆デッサン(2):手の描写	クラフト紙に鉛筆・白鉛筆。複雑な手のポーズによる立体感の強調
	9	色鉛筆デッサン(3):完成・発表	固有色と反射光の表現。クラフト紙の地色を活かした最終仕上げ
	10	応用質感:ガラスと液体	ガラス容器、中の水、映り込み、屈折。透過物の複雑な光の捉え方
	11	応用質感:毛皮と植物	集合体としての毛の流れや、葉の重なりを効率的に密度高く描く技法
	12	構図のブラッシュアップ	既存の静物デッサンを「絵」として成立させるためのフレーミングとライティング
	13	前期まとめ制作(1):構成	自分でモチーフを組み、ポートフォリオ用の大型作品を企画・着手
	14	前期まとめ制作(2):描き込み	執拗なまでの質感追求。2年次としての圧倒的な描き込み量の提示
	15	前期まとめ講評	合評。仕事として求められる「観察の正確さ」の最終チェック
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習Ⅱ	指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・鉛筆、練り消し、消しゴム		
授業外学習の方法	・身近な物を観察し、短時間のスケッチやクロッキーを継続して行う。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	石膏デッサン(1):プロポーション	CI学科対象。大きな明暗の塊と、正確な外形の把握。MCは風景。
	17	石膏デッサン(2):面構成	石膏像の構造を多角的に分析。陰影の境界線(ターミネーター)の整理
	18	石膏デッサン(3):細部描写	表情、髪、首周りの構造の描き込み。石膏特有の硬質な質感表現
	19	石膏デッサン(4):完成・合評	全体のパルールの調整。作品としての完成度追求とフィードバック
	20	ポートフォリオ対策:弱点補強	石膏・風景の苦手箇所の抽出。ピンポイントでの描写トレーニング
	21	風景デッサン制作(1):構成・ラフ	解説・ロケハン。焦点(見せ場)を定めた構図の決定と明暗計画
	22	風景デッサン制作(2):空間構築	遠景・中景・近景の描き分け。空気遠近法を用いた空間の広がり
	23	風景デッサン制作(3):詳細描写	建物、樹木、路面など、素材ごとのタッチの使い分けと描き込み
	24	風景デッサン制作(4):完成・合評	最終的な明度調整、視線誘導の確認。作品の提出とプレゼン
	25	表現の拡張:デッサン×デザイン	デッサンにグラフィック的要素(文字や図形)を組み合わせる実験
	26	就職活動用PF編集(1)	1・2年次のデッサンを整理。自分の「伸び」を見せる構成案
	27	就職活動用PF編集(2)	作品写真の撮影(スキャン)、画像補正、レイアウトの微調整
	28	最終制作(1):自由テーマ	自身の最高傑作となるデッサンの制作。モチーフ・技法の選定
	29	最終制作(2):仕上げ	1タームかけて、隅々まで妥協のない描写を施す集中制作
30	年間総括・最終プレゼン	2年間のデッサンを通じた「見る力」の定着確認と卒業に向けた総括	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習Ⅲ	指導担当者名	大坂美智子
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・鉛筆、練り消し、消しゴム		
授業外学習の方法	・身近な物を観察し、短時間のスケッチやクロッキーを継続して行う。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の進め方、道具の解説、鉛筆の削り方、姿勢と視点の持ち方
	2	点・線・面の基礎演習	鉛筆のタッチ(ハッチング)による階調表現、筆圧のコントロール
	3	基本形態の描写(1):球体	光源の意識、陰影の境界線、回り込みの表現と反射光の理解
	4	基本形態の描写(2):立方体	形の正確な把握(パース)、面ごとの明度差(バリュー)の描き分け
	5	基本形態の描写(3):円柱	直線と曲線の組み合わせ、円のパース、質感の基礎
	6	静物デッサン(1):基本形態の組み合わせ	複数のモチーフを配置した際の接地感と、空間の奥行き表現
	7	静物デッサン(2):質感:自然物	木、石、野菜など。複雑な形状と固有のテクスチャの捉え方
	8	静物デッサン(3):質感:人工物	金属、ガラス、プラスチック。反射と透明感の描き分け
	9	構図法とフレーミング	画面構成の基本、モチーフの配置による視線誘導、エスキースの重要性
	10	解剖学基礎:手の構造	骨格と筋肉の仕組みを学び、手のポーズを論理的に捉える
	11	手のデッサン	自分の手をモチーフにした描写。複雑なフォルムと立体感の追求
	12	空間描写の基礎	教室の一部や窓外を使い、広がり鉛筆一本で表現する訓練
	13	前期まとめ制作(1)	自由静物課題:モチーフの構成、アタリから大まかな明暗まで
	14	前期まとめ制作(2)	詳細な描き込み、質感の追求、画面全体のバルール(調子)の調整
	15	前期まとめ講評	合評を通じた自己課題の発見と、デッサン力の現状確認
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習Ⅲ		指導担当者名	大坂美智子	
実務経験	有	パソコン教室でデザイナー業務に10年従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	・鉛筆、練り消し、消しゴム				
授業外学習の方法	・身近な物を観察し、短時間のスケッチやクロッキーを継続して行う。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	色鉛筆デッサン(2)	クラフト紙に鉛筆・白鉛筆。手を描く。質感と立体感の強調		
	17	色鉛筆デッサン(3)	完成・発表		
	18	石膏デッサン(1)	CIは石膏、MCは風景。アタリと大きなプロポーションの把握		
	19	石膏デッサン(2)	面構成の把握。構造を単純化して捉える訓練		
	20	石膏デッサン(3)	細部の描写。パーツの形と石膏の質感表現		
	21	石膏デッサン(4)	完成・合評		
	22	風景デッサン制作(1)	解説・ロケハン。風景を切り取る視点と構図の決定		
	23	風景デッサン制作(2)	大きな明暗バランスの配置。画面全体のトーン決定		
	24	風景デッサン制作(3)	細部の描き込み。自然物と人工物の描き分け		
	25	風景デッサン制作(4)	完成・合評		
	26	ポートフォリオ制作(1):企画	デッサン専任としての自己アピール作品の選定・構成案		
	27	ポートフォリオ制作(2):制作	弱点を克服した、最も完成度の高い作品の描き込み		
	28	ポートフォリオ制作(3):仕上げ	画面の隅々まで意識した最終調整、作品の定着処理(フィキサチフ)		
29	年間総括・講評	1年間の作品を通じた成長の振り返りと、次年度への課題抽出			
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、総合デッサン課題を実施			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆、練り消し、消しゴム ・スケッチブック、画用紙 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なモチーフについて、形の取り方や陰影の付け方を反復練習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション／デッサンとは	授業目的、評価方法、デッサンの役割と基本道具の使い方を理解
	2	鉛筆の使い方	鉛筆の濃淡、筆圧、線の引き方、グラデーションを練習
	3	形を取る基礎	対象物の大きさ、比率、位置関係を測りながら描く方法を学習
	4	幾何形体① 立方体	立方体を描き、面の向き、パース、明暗を理解
	5	幾何形体② 球体	球体を描き、光源、陰影、反射光、落ち影を学習
	6	幾何形体③ 円柱	円柱を描き、楕円、側面の陰影、立体感を理解
	7	幾何形体④ 複数モチーフ	複数の形体を組み合わせ、位置関係と構図を意識して描写
	8	静物デッサン① 基本形	箱、瓶、布などを観察し、形と明暗を整理して描く
	9	静物デッサン② 質感	紙、布、金属、ガラスなどの質感の違いを観察し表現
	10	構図と余白	モチーフの配置、画面内の大きさ、余白の取り方を学習
	11	クロッキー基礎	短時間で形や動きを捉えるクロッキーを練習
	12	人物パーツ観察	手、足、顔のパーツなど、人体の一部を観察して描写
	13	前期課題制作① 静物デッサン	指定モチーフを用いて、形・明暗・構図を意識した作品を制作
	14	前期まとめ／課題制作・添削	前期課題の仕上げ、個別添削、提出準備
	15	期末試験	前期で学習した内容をもとに、指定モチーフのデッサンを実施
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デッサン実習Ⅳ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物をよく観察し、形・比率・位置関係を正確に捉える力を身につける。 ・鉛筆の使い方、線の強弱、濃淡表現を理解し、基礎的な描写ができる。 ・光と影の関係を理解し、立体感のある表現ができる。 ・質感の違いを観察し、紙・布・金属・ガラス・木材などを描き分けることができる。 ・構図や余白を意識し、画面全体のバランスを考えて制作できる。 ・デッサンを通して、イラスト・キャラクター・背景制作に必要な観察力と基礎画力を高める。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆、練り消し、消しゴム ・スケッチブック、画用紙 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なモチーフについて、形の取り方や陰影の付け方を反復練習する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の振り返り／後期目標確認	前期課題を振り返り、形・明暗・構図の課題を確認
	17	複雑な静物の描写	複数のモチーフを組み合わせ、奥行きと重なりを意識して描く
	18	質感表現① 布・紙	柔らかい素材や折れ目、しわ、薄さを観察して描写
	19	質感表現② 金属・ガラス	反射、光沢、透明感を観察し、硬質素材を描き分ける
	20	自然物の描写	植物、木材、石などの自然物を観察し、形と質感を表現
	21	人物クロッキー① 全身	人物の全身バランス、重心、ポーズを短時間で捉える
	22	人物クロッキー② 動き	動きのあるポーズを観察し、流れやシルエットを描写
	23	手のデッサン	手の構造、関節、立体感を観察し、表情のある手を描く
	24	顔のデッサン	顔の比率、目鼻口の位置、立体感を理解して描写
	25	石膏・立体物デッサン	石膏や立体物を用いて、面の切り替わりと明暗を学習
	26	空間と奥行き	モチーフ同士の距離感、床面、背景を意識して描写
	27	制作物への応用	デッサンで学んだ観察力をイラスト・デザイン・背景制作に活かす方法を確認
	28	後期課題制作① 総合デッサン	複数モチーフを用いて、形・構図・質感を総合的に表現
29	後期まとめ／講評・修正	完成作品を講評し、形・明暗・質感表現を修正	
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、総合デッサン課題を実施	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クライアントワーク I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザインにおけるクライアントワークの基本的な流れを理解できる。 ・依頼内容から、目的・ターゲット・使用媒体・納期・サイズ・必要情報を整理できる。 ・クライアントの要望を踏まえ、チラシ、ポスター、ロゴ、SNS画像などの制作方針を考えることができる。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	PC		
授業外学習の方法	・街中やWeb上のチラシ、ポスター、バナー、ロゴなどを観察し、目的やターゲットを考える。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション／クライアントワークとは	授業目的、評価方法、グラフィックデザインにおける依頼制作の基本を理解
	2	デザイン制作の流れ	依頼確認、ヒアリング、企画、ラフ、制作、修正、納品までの流れを学習
	3	依頼内容の読み取り	目的、ターゲット、媒体、サイズ、納期、掲載情報などを整理
	4	ヒアリングの基本	不明点を確認し、クライアントの要望を引き出す質問の作り方を学習
	5	制作仕様書の作成	制作物の条件、必要情報、スケジュール、納品形式を仕様書にまとめる
	6	ターゲットと目的の整理	誰に何を伝えるデザインかを明確にし、表現方針を考える
	7	参考資料収集と方向性決定	競合・類似事例を調べ、デザインの方向性やトーンを整理
	8	ラフ・構成案の作成	レイアウト案、情報の優先順位、視線誘導を意識したラフを作成
	9	デザイン提案の方法	ラフ案や方向性を説明し、制作意図を言語化する練習
	10	修正指示の受け取り方	修正内容を整理し、意図をくみ取った改善方法を学習
	11	模擬案件制作① 依頼確認	架空のクライアント案件を読み取り、要件と制作条件を整理
	12	模擬案件制作② ラフ提案	目的とターゲットに合わせて複数のラフ案を作成
	13	模擬案件制作③ デザイン制作	採用案をもとに、Illustrator・Photoshop等でデザインを制作
	14	前期まとめ／制作・添削	制作物の修正、誤字脱字確認、提出データの整理
	15	期末試験	前期で学習した内容をもとに、模擬案件の制作物と仕様書を提出
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クライアントワーク I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザインにおけるクライアントワークの基本的な流れを理解できる。 ・依頼内容から、目的・ターゲット・使用媒体・納期・サイズ・必要情報を整理できる。 ・クライアントの要望を踏まえ、チラシ、ポスター、ロゴ、SNS画像などの制作方針を考えることができる。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	PC		
授業外学習の方法	・街中やWeb上のチラシ、ポスター、バナー、ロゴなどを観察し、目的やターゲットを考える。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の振り返り／後期制作説明	前期課題を振り返り、後期ではより実務に近い制作を行う
	17	媒体別デザインの特徴	チラシ、ポスター、SNS画像、名刺、ロゴなど媒体ごとの役割を学習
	18	チラシ制作の基本	情報整理、タイトル、写真、本文、問い合わせ情報の配置を学習
	19	ポスター制作の基本	視認性、キャッチコピー、ビジュアルの見せ方を意識した構成を学習
	20	SNS・Webバナー制作	小さい画面でも伝わる構成、文字量、画像サイズを意識して制作
	21	ロゴ・シンボルの考え方	企業・イベント・企画の印象を伝えるロゴ制作の基本を学習
	22	提案資料の作成	デザイン案、コンセプト、ターゲット、使用イメージを資料にまとめる
	23	プレゼンテーション演習	制作意図や改善点をクライアントに伝える発表練習
	24	総合模擬案件① 依頼確認	指定案件の依頼内容を読み取り、ヒアリング項目と仕様書を作成
	25	総合模擬案件② 企画・方向性決定	ターゲット、目的、媒体に合わせたデザイン方針を決定
	26	総合模擬案件③ ラフ制作	複数案のラフを作成し、情報整理とレイアウトを検討
	27	総合模擬案件④ デザイン制作	Illustrator・Photoshop等を用いてデザイン制作を進める
	28	総合模擬案件⑤ 修正・納品準備	修正指示を反映し、印刷用・Web用データとして整える
	29	後期まとめ／講評・修正	完成物、提案資料、納品データを講評し、改善点を反映
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、総合模擬案件の制作物一式を提出	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クライアントワークⅡ		指導担当者名	大町 亨	
実務経験	有	モダンアート展会員、福島県美術協会常任幹事 自身の制作と絵画教室などを10年以上にわたり従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	180時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントの目的、課題、ターゲットを整理し、デザインによる解決策を提案できる。 ・ヒアリング内容をもとに、コンセプト、制作方針、デザイン案を論理的に組み立てることができる。 ・チラシ、ポスター、SNS画像、ロゴ、パンフレット等、複数媒体に応じたデザイン展開ができる。 ・修正指示やフィードバックを適切に受け止め、目的に沿って改善することができる。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・制作仕様書、ヒアリングシート ・提案資料テンプレート 				
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で受けた講評や修正指示を整理し、次回授業までに制作物へ反映する。 				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション／実務制作の確認	授業目的、評価方法、クライアントワークⅠの復習とⅡで求められる制作水準を確認		
	2	クライアント課題の読み取り	依頼内容から目的、課題、ターゲット、使用媒体、納期を整理		
	3	ヒアリング応用	クライアントの要望を深掘りし、制作に必要な情報を引き出す質問を作成		
	4	コンセプト設計	誰に何をどのように伝えるかを整理し、制作コンセプトを立案		
	5	参考資料・競合調査	類似事例や競合デザインを分析し、方向性や差別化ポイントを整理		
	6	提案資料の作成	コンセプト、ターゲット、デザイン方向性、参考ビジュアルを資料化		
	7	ラフ案制作	複数のラフ案を作成し、情報整理とレイアウトの方向性を検討		
	8	中間提案・講評	ラフ案と提案資料を発表し、講評をもとに制作方針を決定		
	9	デザイン制作① ベース作成	採用案をもとに、Illustrator・Photoshop等でデザインの土台を制作		
	10	デザイン制作② ビジュアル調整	写真、イラスト、配色、フォントを調整し、訴求力を高める		
	11	デザイン制作③ 情報整理	文字量、視線誘導、余白、優先順位を見直し、伝わりやすさを改善		
	12	修正対応	講評や想定クライアント指示をもとに、目的に沿ってデザインを修正		
	13	納品データ作成	印刷用・Web用データの書き出し、ファイル整理、入稿前確認を行う		
	14	前期まとめ／プレゼンテーション	完成物と提案資料を発表し、制作意図と改善点を説明		
	15	期末試験	前期で学習した内容をもとに、制作物・提案資料・納品データを提出		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クライアントワークⅡ	指導担当者名	大町 亨
実務経験	有	モダンアート展会員、福島県美術協会常任幹事 自身の制作と絵画教室などを10年以上にわたり従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 3年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントの目的、課題、ターゲットを整理し、デザインによる解決策を提案できる。 ・ヒアリング内容をもとに、コンセプト、制作方針、デザイン案を論理的に組み立てることができる。 ・チラシ、ポスター、SNS画像、ロゴ、パンフレット等、複数媒体に応じたデザイン展開ができる。 ・修正指示やフィードバックを適切に受け止め、目的に沿って改善することができる。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・制作仕様書、ヒアリングシート ・提案資料テンプレート 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で受けた講評や修正指示を整理し、次回授業までに制作物へ反映する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の振り返り／後期案件説明	前期課題を振り返り、後期では複数媒体展開を想定した制作を行う
	17	ブランディングの基礎	ロゴ、色、フォント、写真、言葉を統一し、ブランドイメージを考える
	18	媒体展開の考え方	ポスター、チラシ、SNS、Web/バナー等へ展開する際の共通点と違いを学習
	19	キービジュアル制作	複数媒体に展開できる中心ビジュアルを企画・制作
	20	ロゴ・タイトル周りの設計	イベント名、企画名、ロゴタイプ、見出しの見せ方を検討
	21	紙媒体デザイン制作	チラシ、ポスター、リーフレットなど印刷媒体のデザインを制作
	22	Web・SNS媒体デザイン制作	SNS投稿画像、バナー、告知画像など画面表示を意識したデザインを制作
	23	統一感の調整	紙媒体とWeb媒体で配色、フォント、写真、レイアウトの統一感を整える
	24	総合案件制作① 依頼確認・仕様整理	指定案件をもとに、制作条件、媒体展開、納品物を整理
	25	総合案件制作② 企画・コンセプト	目的、ターゲット、訴求内容を整理し、制作コンセプトを立案
	26	総合案件制作③ ラフ・提案	複数媒体のラフを作成し、提案資料としてまとめる
	27	総合案件制作④ デザイン制作	紙媒体・Web媒体を想定し、各種デザインを制作
	28	総合案件制作⑤ 修正・納品準備	講評をもとに修正し、入稿用・掲載用データを整える
29	後期まとめ／最終プレゼン	完成物一式を発表し、コンセプト、展開方法、制作意図を説明	
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、総合案件の制作物一式を提出	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クライアントワークⅢ		指導担当者名	大町 亨	
実務経験	有	モダンアート展会員、福島県美術協会常任幹事 自身の制作と絵画教室などを10年以上にわたり従事			
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	180時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントの目的、課題、ターゲットを整理し、デザインによる解決策を提案できる。 ・ヒアリング内容をもとに、コンセプト、制作方針、デザイン案を論理的に組み立てることができる。 ・チラシ、ポスター、SNS画像、ロゴ、パンフレット等、複数媒体に応じたデザイン展開ができる。 ・修正指示やフィードバックを適切に受け止め、目的に沿って改善することができる。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・制作仕様書、ヒアリングシート ・提案資料テンプレート 				
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で受けた講評や修正指示を整理し、次回授業までに制作物へ反映する。 				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション／実務制作の確認	授業目的、評価方法、クライアントワークⅠの復習とⅡで求められる制作水準を確認		
	2	クライアント課題の読み取り	依頼内容から目的、課題、ターゲット、使用媒体、納期を整理		
	3	ヒアリング応用	クライアントの要望を深掘りし、制作に必要な情報を引き出す質問を作成		
	4	コンセプト設計	誰に何をどのように伝えるかを整理し、制作コンセプトを立案		
	5	参考資料・競合調査	類似事例や競合デザインを分析し、方向性や差別化ポイントを整理		
	6	提案資料の作成	コンセプト、ターゲット、デザイン方向性、参考ビジュアルを資料化		
	7	ラフ案制作	複数のラフ案を作成し、情報整理とレイアウトの方向性を検討		
	8	中間提案・講評	ラフ案と提案資料を発表し、講評をもとに制作方針を決定		
	9	デザイン制作① ベース作成	採用案をもとに、Illustrator・Photoshop等でデザインの土台を制作		
	10	デザイン制作② ビジュアル調整	写真、イラスト、配色、フォントを調整し、訴求力を高める		
	11	デザイン制作③ 情報整理	文字量、視線誘導、余白、優先順位を見直し、伝わりやすさを改善		
	12	修正対応	講評や想定クライアント指示をもとに、目的に沿ってデザインを修正		
	13	納品データ作成	印刷用・Web用データの書き出し、ファイル整理、入稿前確認を行う		
	14	前期まとめ／プレゼンテーション	完成物と提案資料を発表し、制作意図と改善点を説明		
	15	期末試験	前期で学習した内容をもとに、制作物・提案資料・納品データを提出		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 					

授業計画(シラバス)

科目名	クライアントワークⅢ	指導担当者名	大町 亨
実務経験	有	モダンアート展会員、福島県美術協会常任幹事 自身の制作と絵画教室などを10年以上にわたり従事	
開講時期	通年	対象学科学年	トータルクリエイト・情報大学科 4年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数 3時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントの目的、課題、ターゲットを整理し、デザインによる解決策を提案できる。 ・ヒアリング内容をもとに、コンセプト、制作方針、デザイン案を論理的に組み立てることができる。 ・チラシ、ポスター、SNS画像、ロゴ、パンフレット等、複数媒体に応じたデザイン展開ができる。 ・修正指示やフィードバックを適切に受け止め、目的に沿って改善することができる。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・制作仕様書、ヒアリングシート ・提案資料テンプレート 		
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で受けた講評や修正指示を整理し、次回授業までに制作物へ反映する。 		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	前期の振り返り／後期案件説明	前期課題を振り返り、後期では複数媒体展開を想定した制作を行う
	17	ブランディングの基礎	ロゴ、色、フォント、写真、言葉を統一し、ブランドイメージを考える
	18	媒体展開の考え方	ポスター、チラシ、SNS、Webバナー等へ展開する際の共通点と違いを学習
	19	キービジュアル制作	複数媒体に展開できる中心ビジュアルを企画・制作
	20	ロゴ・タイトル周りの設計	イベント名、企画名、ロゴタイプ、見出しの見せ方を検討
	21	紙媒体デザイン制作	チラシ、ポスター、リーフレットなど印刷媒体のデザインを制作
	22	Web・SNS媒体デザイン制作	SNS投稿画像、バナー、告知画像など画面表示を意識したデザインを制作
	23	統一感の調整	紙媒体とWeb媒体で配色、フォント、写真、レイアウトの統一感を整える
	24	総合案件制作① 依頼確認・仕様整理	指定案件をもとに、制作条件、媒体展開、納品物を整理
	25	総合案件制作② 企画・コンセプト	目的、ターゲット、訴求内容を整理し、制作コンセプトを立案
	26	総合案件制作③ ラフ・提案	複数媒体のラフを作成し、提案資料としてまとめる
	27	総合案件制作④ デザイン制作	紙媒体・Web媒体を想定し、各種デザインを制作
	28	総合案件制作⑤ 修正・納品準備	講評をもとに修正し、入稿用・掲載用データを整える
29	後期まとめ／最終プレゼン	完成物一式を発表し、コンセプト、展開方法、制作意図を説明	
30	期末試験	後期で学習した内容をもとに、総合案件の制作物一式を提出	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作実習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	・卒業生:2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作実習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	・卒業生:2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作実習Ⅲ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 3年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作実習	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			